(2) 第9回日本ジオパーク全国大会アポイ岳大会ポストジオツアー⑦
「どんだけ強風体験　えりも岬　とんがりロード」

ねらい	風極の地と言われる「えりも岬」。この岬に日高山脈が落ちていく･･･そう考えている方も多いはず。このツアーは本当に日高山脈はえりも岬で太平洋に没しているのか、周辺の地形を見ながら考えてみるツアー。また、日高側と十勝側から日高山脈を眺め、日高山脈のなりたちや地形の違いを見る。
ガイド	・アポイ岳ジオパーク認定ガイド　２名　　・日高管内学芸員　１名
内容	10月7日（土） 大会終了後、宿へ移動 10月8日（月） 宿泊施設→えりも町郷土資料館→歌別川サケ遡上見学→守人展望所→えりも岬・風の館→守人（昼食）→一石一字塔→ルーラン岩礁→黄金道路（車窓）→ルベシベツ（車窓）→フンベの滝→中札内展望所→とかち帯広空港
まとめ	アポイ岳ジオパークエリア内には、プレートの深い所の岩石が中心に見られるが、えりも町も範囲に含めるとプレートの浅いところも含めた広い範囲を扱うことができ、ジオ多様性が広がる。 日高山脈と人のかかわりについて、道路開削の歴史、段丘面で育つ短角牛、昆布や鮭等の産業面など多様な面から感じることができる。

守人展望所。海岸段丘面と日高山脈豊似岳の景色の違いについて考える。

ルーラン岩礁において、日高山脈をつくる地質を確かめる。

えりも町郷土資料館では、地元産業「昆布」に触れ、日高山脈岩石標本も見学。
日高山脈が海に没するところは断崖絶壁。江戸幕府により猿留山道が開削された。

4.　まとめ

エリア外の日高山脈周辺のフィールドを使うことによって、プレートテクトニクスや地球活動に関する見せ方の幅が広がり、別の視点から大地の遺産の科学的理解および大地の遺産の大切さの理解につながる可能性が生まれた。

アポイ岳ジオパークに至るまでの移動中の楽しみ方を整理することで、地域の生活や生態系などの要素が整理され、新たな面から大地の遺産とのつながりを見出す可能性が生まれた。

エリア外ジオツアーの取り組みを通して、エリア外へのジオパーク波及効果を感じることができた。

エリア外のツアーをつくることは労力を要する。１年前から、アポイ岳ジオパーク認定ガイド、学術顧問、事務局、近隣町の学芸員が共にジオツアー検討会・下見を行う中で、エリア外のジオツアーをつくった。

ポストジオツアー参加者アンケートより、ツアー全体の満足度について「93%以上」が「満足・やや満足」であった。

ポストジオツアーのガイドは、自らふるさとの魅力を考え伝えることができ、自ら学習したことを伝えることは楽しいと感じ、またガイドしたいという気持ちにつながった。

2019年２月には町民向けに浦河町～新ひだか町方面ジオツアーを実施した。冬ならではのオジロワシ・オオワシ観察も取り入れた。参加者からは他の季節にも開催してほしいとの声があった。今年度は初夏に実施予定である。今後は、新ひだか町軍艦山にみられるかんらん岩ブロックや新ひだか町社万部山から見た日高山脈の景色の要素を取り入れるために、現地調査を予定している。

今後は、エリア外要素も取り入れたジオツアーの商品化を試みたい。

■ツアー全体の満足度について
参加者アンケートより